

厳しい時こそ土を耕し、種まきを

星 光一^{*1}
Hoshi Koichi

日刊工業新聞の特集記事に眼がとまった。

千葉県の森田健作知事が2009年に就任して以来の施策についての特集であり、千葉県中央部を走るローカル線の小湊鉄道を起点に2時間以上の長距離通勤を続けている者にとって、興味がわいたのである。

- 東京湾アクアラインの通行料金引き下げ
- この4月13日、木更津に大型アウトレットモール開業
- かずさアカデミアパークの再生

と元青春スターとは思えない行動力である。

私がローカル線の小さな旅で有名な小湊鉄道の光風台に自宅を構えたのは昭和54年である。当時マスコミは東海大地震が間近に迫っていると騒ぎ立て、夫婦とも実家が渋谷にあり、大地震の際に少しでも逃げるに適したエリアはと探していたところ、千葉県の市原市は地層学的に古くから形成されており安定しているとの情報で、飛びついた物件だったのである。昭和55年に転居した時、初めて長距離通勤が現実となり苦勞したが、リスク管理の観点でも30歳代の若さからか、立地条件には満足したものである。

その当時も東京湾アクアライン建設の話は出ていたがなかなか実現せず、東京との往復は常に京葉高速道路を利用していた。その後通勤族となり戻ってきたのは2年前である。



写真1 妻・智香子、長男・光祐みつまさ（当時5歳）、
長女・智子（当時2歳）。自宅の前で
（昭和56～57年）

そろそろ家屋に劣化が目立ち始め、人生80年以上を思うとバリアフリーが必需と考えて昨年の2月から準備を始め3月5日からリフォームを開始した。「桜の咲く頃には完成ですよ」と言われ楽しみにしていた。

3月11日は株式会社アイ・エイチ・アイ マリンユナイテッド（IHIMU）呉工場の流動資産棚卸立会に出張しており、帰途広島駅に着いたのは15時過ぎだと思う。新幹線が全て新大阪までとのアナウンスに東日本大震災を初めて知った。自宅に連絡しても通じず不安を感じつつ、翌日の株式会社アイ・エイチ・アイ・マリン（IMC）流動資産棚卸立会のため、相生まで何とかたどり着き、駅より有線電話で連絡をとることができた。

*1：監査役

地震発生時、家内は家の外で屋根ふき中の大工さんと話をしている最中で突然の大揺れで地面に座り込んでしまい、大工さんは足場にしがみついていた事無きを得たとのことであった。揺れがおさまった時、市原の海岸付近より大きな炎が見え黒煙が立ち昇っていた。(後でコスモ石油製油所の火災と知った。)

家財は書棚の書籍が何冊か落ちた程度で被害が無かったと連絡を受け、胸をなでおろした。翌朝早々に棚卸を実施し、相生を9時30分に出発し東京駅に着いたが、新幹線は順調だったものの、東京から先、特に千葉からの内房線がやっと運行されて帰宅できた時は夕方になっていた。

さて、リフォームのその後だが、東北地方の被災でキッチン・ユニットバス・トイレ関係の設備が調達できなくなり、家内と二人でショールーム巡りをして、多少不満があっても何とか手に入る設備を見つけ出し、リフォーム着工から104日目に完成したのである。桜の咲く頃から紫陽花の咲く時期まで不便を強いられたが、完成した我家は耐震基準を十分にクリアした老後を送るには満足過ぎる出来ばえになっていた。



写真2 初孫の光太郎(当時4歳)と、光風台の鎮守様・鶴峰八幡宮に初詣(2011年)

我家の再生から千葉県の再生に話を戻すが、時々留守宅の見廻りに来る時もあったが、開通したアクアラインは高速料金が高額でありアクセスも悪く、利用することは少なかった。今では館山道との接続で東京まで1時間と便利になり、特に高速料金が800円と割安感も重なり、常時活用している。「三井アウトレットパークの開業」もアクアラインの利便性が木更津に決定した要因との報道もあり、好循環で動き出している。

先日鴨川旅行の道すがら「かずさアカデミアパーク」の道案内が眼に入り、家内とドライブを楽しんだが、広大な土地に研究施設が点在しているだけの空地だらけのエリアだった。「かずさアカデミアパーク」は館山道の木更津北ICから約5km、バイオ・IT産業の国際的な研究開発拠点を目指しバブル期に造成されている。しかし、その後の景気低迷や団地コンセプトと企業ニーズの不一致で現在でも民間企業用地の約4割が売れ残っている。そこで県は2012年度より立地規制緩和を推進し、従来はバイオ・IT・航空宇宙など先進的な13分野に限っていた条件を、今後は新エネルギーや健康医療などの成長分野を含め、幅広い業種に拡大するとのことである。

このように従来から棚上げになっていたエリアの再生計画をスタートさせ、新たな花を咲かせようとしているのだ。

神奈川県や埼玉県と比較して千葉県は東京隣接県として、「半島性」が弱点となっており、首都圏の中で一番乗り遅れの感があったが、元青春スターの知事であってもブレーンを結集し知恵をしなければ、大きな可能性を生み出せると思える内容であった。

4月中旬、愛犬ベリージュニア(黒毛のラブラドルレトリバー・11歳)を伴って散歩の道すがら、農家の庭先にある野菜スタンド(地産地消)に立寄り、旬の竹の子を所望したら、4月1日よ



写真3 自宅前で光太郎にじゃれる愛犬ベリー
ジュニア (2011年)

り放射能の食品安全基準が強化され、市原市の竹の子は放射性セシウムが134ベクレルと基準を上まわったと報道され、店頭には出せなくなったとのこと。1年間丹精込めて竹林を整備してやっと収穫できる矢先のマスコミ報道で残念がっていた。今までの基準値500ベクレルが100ベクレル

に引き下げられ、34ベクレルが人体にどの程度影響するのか証明された結果ではない。

人生80年の小生としては多少眼をつぶっても、匂を口にする方が健康には最良と考え「気にしないので買いますよ」と言うと、自宅で食べる水煮にした竹の子を大切に持ち出してきた、大層安価に買い求めることができた。原発事故以来、マスコミ報道は極端に不安をあおる傾向が強いが、風評被害を増幅させる一因ではないだろうか。個々人が報道を鵜呑みにせず、自己の判断を尊重して対処することも大切だと思う。

本年4月より、IHIグループの業務所掌範囲の見直しにより、研究開発事業部が試験プロジェクト部となり、西日本事業部が検査・計測事業部に分割され、IICの財産である『人財』が減少した今こそ「厳しい時こそ土を耕し、種まきを」を忘れずに皆で知恵を出し合って、なお一層の発展を目指したいものである。



監査役

星 光一

TEL. 03-3778-7904

FAX. 03-3778-7968